

中国延辺朝鮮族自治州視察報告

An Inspection Report of Yanbian Korean Autonomous Prefecture in China

田宮 昌子

中国延辺朝鮮族自治州は中国東北三省の一つ吉林省の東部に位置し、ロシア及び北朝鮮と国境を接する。州総人口の4割近くを朝鮮族が占め、朝鮮語が公用語である。朝鮮族は中国の少数民族の中でも教育普及率の高さで知られ、自治州にある延辺大学は中国で唯一民族語での大学教育が行われており、この地における民族自治や民族教育についてはかねてから関心を抱いていた。2018年夏、北朝鮮情勢がワールドニュースを賑わし、中朝国境地帯もメディアの関心を集める中、現地を訪ねた。以下、延辺朝鮮族自治州における民族教育および民族自治の実際と中朝露国境の現在を主軸に報告する。

キーワード：延辺朝鮮族自治州、朝鮮族、民族自治、民族教育、中朝国境、中露国境

目次

はじめに

一、延辺朝鮮族自治州における民族教育と民族自治の実際

1、延辺朝鮮族自治州について

2、民族教育と民族自治の実際

二、中朝露国境の現在

1、琿春：国境貿易に活路を探る街

2、図們：国境観光のニュースポットを目指す街

むすびに

はじめに

2018年8月初旬の約一週間、中朝露国境地帯に位置する中国延辺朝鮮族自治州を視察した。朝鮮族は中国の少数民族の中でも教育普及率の高さで知られ、自治州にある延辺大学は中国で唯一民族語での大学教育を行う教育機関とされており、この地における民族自治や民族教育についてはかねてから関心を抱いていた。このため、中国語と韓国語の双方を履修する学生から留学先の選択について相談を受けた際にも、漢語と朝鮮語が同時に学べる大学として延辺大学を紹介したものである。学生はめでたくトビタテ JAPAN プログラム¹で延辺大学への留学を実現し、当地の文化環境に魅力を

感じて、一年の留学期間を終えた後も帰国せず、延辺大学に編入してしまった。当該学生が三年間の勉学の後に卒業を迎えるのを機に、前年来、北朝鮮情勢がワールドニュースを賑わし、中朝国境地帯もメディアの関心を集める中、現地視察のコーディネイトをこの学生に依頼して現地を訪ねた。以下、延辺朝鮮族自治州における民族教育および民族自治の実際と中朝露国境の現在を主軸に報告する。

一、延辺朝鮮族自治州における民族教育と民族自治の実際

1、延辺朝鮮族自治州について

1) 朝鮮族とは：高い流動性と移民性

「中国朝鮮族」は中華人民共和国において公式に認定されている民族籍 56 を構成する一民族である。中国全土での朝鮮族人口は 183 万人余で、うち吉林省に 114.5 万人、黒龍江省に 38.8 万人、遼寧省に 24.1 万人と、大部分が所謂「東北三省」に居住する。民族自治区域（「区域」については後述）としては、延辺朝鮮族自治州の他に、吉林省東南部に長白朝鮮族自治県があり、ここには 1.36 万人の朝鮮族が居住する²。延辺博物館の展示「前言」は、次のように朝鮮族を定義している。

中国朝鮮族は朝鮮半島から我国の東北地区に移住³した移住民族であり、我が国 56 民族の一つで、中華民族大家庭の重要な構成員である。

後述するように、朝鮮族は、中国領域への集団的移住が始まった最初期から今日まで僅か 4 世紀しか経過しておらず、更に今日の規模に繋がる大量流入が起こるのは 20 世紀であることから、中国領域に外部から移住したことが明確で、現在の居住地での歴史も浅い。このため、移民としての性格を未だ強く保っていると言え、朝鮮族の人々は今日もなお現地点より更に良い環境を求めて国内外への移住を活発に行う。延吉市内の書店で入手した中国朝鮮族民族史学会編集の論文集『朝鮮族研究⁴』を見ると、収録論文は 4 部門に分けられているが、そのトップが「移民とディアスポラ研究」で、論文数も最多であり、「“ディアスポラ”の視点から中国朝鮮族の歴史を読み解く」「朝鮮族の性質における移民性の要素とその影響」「朝鮮族人口の流動性と移民性」といった論題が並んでいる。このように、朝鮮族は流動性・移民性が高いという点が中国 56 民族の中でも特徴的な民族集団である。

2) 延辺朝鮮族自治州の特徴

延辺朝鮮族自治州（以下「延辺自治州」）は、中華人民共和国の建国から 3 年目の 1952 年 9 月 3 日に成立した⁵。吉林省の東部に位置し、ロシア及び北朝鮮と国境を接する（資料 1）。州の総面積は 4.33 万平方キロ（宮崎県の約 6.5 倍）で、吉林省の 4 分の 1 を占める。州総人口 212 万人のうち朝鮮族が 75.9 万人と州全体の 35.8% を占める。州都は延吉市で、「延辺自治州」の政治・経済・文化の中心である⁶。

日本から「延辺自治州」には、関西国際空港から州都の延吉市への直行便が出ている⁷。筆者もこの便を利用して延吉市に向かった。空港で搭乗を待つ人々に話しかけてみると、日本に居住する

延辺出身者や、延辺でビジネスを展開する日本人などの利用が主体で、生活者用の定期便といった趣であった。

中国の民族政策の基本は「民族区域自治」と呼ばれるもので、集住のレベルに応じて、自治区、自治州、自治県の三段階（区が最大規模）の地方政府を組織する権限が与えられ、地域内の自治が実行される。民族自治区域では、以下に具体的に見るように、その地域に集住する主要な民族の言語が公用語となる⁸。



資料1：延辺朝鮮族自治州の位置

「延辺自治州」政府の公式HPは、延辺の特色として、「沿辺近海」「朝鮮族の集住」「生態系の良しさ」「資源の豊かさ」「国家政策上の優遇」の5点を挙げている。一番目の「沿辺近海」とは国境と外海に接するという意味で、「延辺自治州」は、東はロシアの沿海国境地域と、南は図們江を隔てて北朝鮮咸鏡北道及び两江道と向かい合う。州域内の国境線は全長768.5キロに達し、うち中朝国境線が522.5キロ、中露国境線が246キロ、中朝・中露間の国境ゲートは11箇所、国境ゲートを通過する貨物量は吉林省全体の90%以上に達する。特色の二番目に当たる「朝鮮族の集住」というのは、「延辺自治州」は中国で唯一の朝鮮族自治州であり、朝鮮族の42.3%が集住する中国最大の朝鮮族集住地域であるためである。その他、「延辺自治州」は州の教育水準平均が吉林省および全国平均を上回るなど、教育レベルの高さも他の少数民族自治地域に見られない際立った特徴である⁹。

3) 延辺の歴史と文化の特徴：延辺博物館の展示から

延辺博物館は「延辺自治州」の州都延吉市に設置されている州立博物館である。日本を発ち、延吉空港に降り立つと、冒頭で述べた延辺大生・七野帆乃美さんが案内人として出迎えてくれており、市内に入る前に空港から延辺博物館に直行することとなる。以下、「延辺自治州」の歴史と文化について、自治州による発信を見る。

展示は「朝鮮族移住史」「朝鮮族民俗」「朝鮮族革命闘争史」の三部門を軸に構成されている。民族自治州の博物館として、解説文は民族語の朝鮮語が先で、その下に漢語が訳文として掲げられている（資料2）。

「朝鮮族移住史」展示区

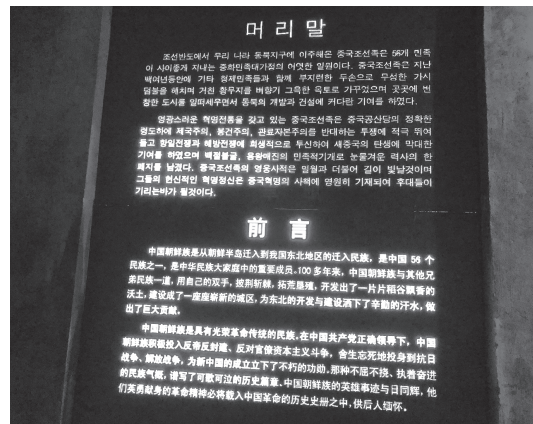
朝鮮族の朝鮮半島から中国への移住は17世紀初頭（明末清初）に始まる。清軍に捕らえられた朝鮮の軍民が遼東一帯¹⁰に安置されたのが、中国朝鮮族の最も早い「一脈」であるとされていて、この「一脈」の子孫として、現在の遼寧省本溪満州族自治県に住む朴氏一族が紹介されている。19世紀中葉になると「成千上万」（千万に上る）朝鮮人が図們江や鴨緑江を越えて、中国東北地区に移住し、延辺を中心に広大な朝鮮族集住地域を形成した。

再び、博物館「前言」を見ると

朝鮮族が形成される歴史過程は、各民族と苦難を共にし、互いに助け合い、肩を並べて闘って来た過程であり、共に美しいふるさとを創りあげ、輝かしい中華文化を吸収し、中華民族大家庭に溶け込む過程であった。

解説パネルの用語から、朝鮮半島に住む人々として呼称する際には「朝鮮人」、中国56民族を構成する一民族として呼称する際には「朝鮮族」と呼称するのが民族政策上の概念規定であることが分かる。延辺は朝鮮族自治州とはいえ、朝鮮族が総人口にしめる割合は4割に満たず(上述)、残り6割強が漢族、満族、回族などから構成される多民族社会であり、「中華民族多元一体¹¹⁾」の理念の下での諸民族の融和と共生が語りの基調である。

「東北各地における朝鮮集団移民分布状況統計表」(資料3)では、延辺に相当する地域を「間島省¹²⁾」として、全9省におけるデータが記録されている。その「間島省」の「延吉」を含む3県の合計を挙げると、71部落、5178戸、26,955人と規模はまだ小さい。



資料2 延辺博物館の展示パネル「前言」

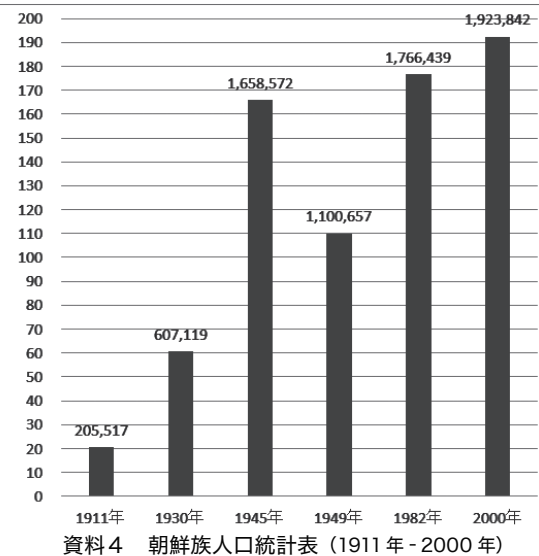
省県名		部落数	合計	
			戸数	人口
間島	安図	38	2845	14408
	汪清	19	1693	9282
	延吉	14	640	3265
	合計	71	5178	26955
奉天	瀋陽	1	29	166
	興京	4	329	1772
	合計	5	358	1938
通化	輝南	2	200	992
	金川	3	149	758
	柳河	7	440	1748
	通化	1	160	909
	合計	13	949	4407
吉林	樺甸	13	885	4448
	懷徳	6	310	1633
	磐石	1	64	392
	合計	20	1259	6473

省県名		部落数	合計	
			戸数	人口
牡丹江	穆稜	7	588	3325
	寧安	2	323	1799
	合計	9	911	5124
賓江	賓江	3	282	1515
	延寿	1	70	371
	合計	4	352	1886
龍江	泰賚	1	51	292
	合計	1	51	292
錦州	磐山	4	329	1843
	合計	4	329	1843
北安	龍鎮	10	250	250
	嫩江	10	250	1350
	合計	20	500	1600
総計		147	9887	50508

資料3 東北各地における朝鮮集団移民分布状況統計表 1937～1939年

「朝鮮族人口統計表」（資料4）を見ると、20世紀初頭に205万人強であった人口が30年に約3倍に、日本が敗戦する45年には8倍強に、朝鮮戦争前年の49年には約500万人減少しているのが分かるが、20世紀最後の年には世紀初頭の10倍近い規模になっている。ちなみに現時点の全中国の朝鮮族人口は冒頭で述べたように183万929人である。今日の朝鮮族の規模は主に20世紀中盤以降の半世紀に急速に形成されたもので、朝鮮族が中国領域での居住史の浅い、移民としての性質を強く持つ集団であり、この点が中国の55少数民族の中での特徴であることが改めて分かる。

単位：万人



「朝鮮族民俗」展示区

通過儀礼、年中行事など、朝鮮族の生活の諸相が紹介されている。「抓周礼」（資料5：一歳の誕生日に筆やお金などを並べた中から子供に欲しいものを取らせて将来を占う。沖縄などでも行われる）や婚礼の紅色など漢文化の影響を感じさせる要素と、日常着が男女とも全身白色で漢文化の葬礼のように見える等、朝鮮文化の独自性を感じさせる要素が混在する。



資料5 「抓周礼」

「朝鮮族革命闘争史」展示区

先ほど来、引用している「前言」はこの展示区に掲げられているもので、「前言」の本題はここからである。

中国朝鮮族は輝かしい革命の伝統を有する民族である。中国共産党の正しい指導の下、中国朝鮮族は反帝国主義、反封建主義、反官僚資本主義の闘争に積極的に加わり、抗日戦争、解放戦争に死をも恐れず身を投じ、新中国の成立に

不朽の功績を打ち立てた。その不撓不屈の民族的気概は心を打つ史詩を書き上げた。中国朝鮮族の雄雄しい事跡は永遠に輝き、その英雄的で献身的な革命精神は必ずや中国革命の史冊の上に書き留められ、後人が思いを寄せるところとなるであろう。

延辺大学に学んで4年目に入る案内人・七野さんも、延辺朝鮮族にとって、抗日・解放戦争勝利

に貢献したことは、延辺人の民族アイデンティティを支える重要な要素になっていると感じると言う。

この展示区を締めくくる絵「沸騰する九三」（資料6）には何の解説も付されていないが、タイトルと描きこまれた横断幕から1952年9月3日の延辺朝鮮族自治区成立（注5参照）の喜びを描くものと分かる。農楽演奏や民族衣装の人々が民族色を醸し出す中央に自治区の党指導者と思われる人物が立って、人々と共に踊っている。



資料6「沸騰する九三」

2、民族教育と民族自治の実際

1) 延辺大学における民族教育

延辺大学は「延辺自治州」の最高学府として、州都・延吉市の中心部に立派な正門を構える（資料7）。

延辺大学の建学は1949年、つまり中華人民共和国建国の年で、約70年の歴史を有する。中国の大学には、北京大学や清華大学など、清朝末期から中華民国期に淵源を持つ、中国における大学建学の第一期に建学された大学群と、現在の中国建国後に共和国政府によって建学された大学群が有り、



資料7：延辺大学正門

延辺大学は後者に属する。建国の年に少数民族地域に設立されていることから、明確な民族政策の下に設立されたことが分かる。今日では、19の学院と76の学部専攻の上に修士課程・博士課程を擁し、博士・修士課程生4千名、学部生1万8千605名、専科生414名、留学生が34か国481名という規模となっている¹³。

延辺大学は民族言語で大学教育が行われる中国でも唯一の大学として知られる。2018年度『延辺大学招生指南』（受験生向け大学案内）掲載の学生採用方針では、「民族的特色を有する総合大学」として、以下の方針が示されている。

一、東北三省において一定の割合の朝鮮族学生を受け入れる。このため、朝鮮族と非朝鮮族で異なる合格基準点を設ける。

二、民族と入学試験言語に制限を設ける。

民族については、①朝鮮語専攻と応用韓国語専攻は、非朝鮮族の学生に限る。②漢言語と英語（未修学者）専攻は、朝鮮族の学生に限る。

入学試験言語については、①中国少数民族言語文学専攻、英語（未修学者）専攻は、朝鮮

中国延辺朝鮮族自治州視察報告（田宮昌子）

語試験受験生に限る。②朝鮮語専攻、応用韓国語専攻、漢言語文学専攻は、漢語試験受験生に限る。

吉林・黒龍江・遼寧三省における民族籍の要求は、入試事務室が公布する省別学生募集計画に示す。それ以外の省には、民族籍の要求は無い¹⁴。

また、「少数民族予科班」が国家教育部（日本の文部科学省に相当）の批准を経て、より多くの少数民族人材を育成する目的で設置されている。対象は少数民族の受験生のみで、吉林・黒龍江・遼寧三省では、募集定員の80%を朝鮮族、20%をその他の少数民族の受験生としている。学生はまず予科班で一年学習し、知識を増強し、学習能力を高めた後に、成績と志望に応じて、(体育や芸術を除く)学部で専攻で学ぶ。予科班の主な学習内容は数学、語文（日本の「国語」に相当）、英語、コンピューター基礎など。学業期間を満了し、成績が合格基準に達すれば、学部の卒業証書が授与される。高校卒業程度までの補習を行った上で大学教育に参加させるという、民族政策の一つのようである。

予定していた漢朝英3言語を学びながら交流するという国際大学生サマーキャンプ見学は残念ながらプログラムの都合で叶わなかったが、留学生事務室「留学生之家」を訪ね、事務室主任の金永燦氏に延辺大学の教育についてお話を伺うことが出来た。

まず、延辺大学の民族語教育については、金氏によると、講義は基本的に漢語で行われ、朝鮮語で講義が行われるのは「朝鮮文学」など一部の講義のみである、とのことであった。上述した『延辺大学招生指南』によれば、学内の19の学院の中に「朝鮮－韓国学院」と「芸術学院」があり、これらの民族系学院で民族語・民族文化教育が行われているが、その他の学部では、漢語を用いた一般的な大学教育を行うようである。

次に、留学生教育であるが、前述の国際サマーキャンプは、朝鮮語も学べることを延辺大学の特色として打ち出しているものの、通常の留学生プログラムでは朝鮮語教育を行っていない。「クラスを設けることは可能であるが10人は必要。1人2人では成立しない」ということなので、需要が多くないことが原因のようだ。それもそのはず、現時点で延辺大が受け入れている留学生は全体で320人、うち語学留学が130人、そのうち7割が韓国学生で、残り3割がロシア、日本、北朝鮮の学生という。韓国の学生にとって、延辺大学への留学は、自国に近く、生活言語に不自由しない地で漢語が学べるという利点があるようだ。

留学生への漢語教育を行っている学院の名称は「漢語言文化学院」（漢の言語と文化を教育する機関の意味）。正面玄関の左右に学院の位置づけや機能を示す金色のパネルが5枚掲示されている（資料8）。



資料8：漢語言文化学院正面玄関

玄関右側上のパネルは「華文教育基地単位 國務院僑務弁公室」。その下の英語版パネルでは「華文」は「Chinese Language And Culture」、「僑務」は「Overseas Chinese Affairs」と訳されている。一方、玄関左側は上から「漢語言文化学院」「延辺大学『漢語学習』編輯部」「漢語国際推広東北基地延辺大学中心」である。日本語で「中国語」と呼ぶ一つの言語について、「華文」「漢語」の二種類の呼称が登場し、それらが玄関の左右で別々の位置を占めている。

ちなみに、東南アジアを中心とした中国系学生への中国語教育拠点として有名な暨南大学（広東省広州）の「華文学院」も、僑務弁公室によって「華文教育基地」に認定され、国家教育部によって「国家対外漢語教学基地」に認定されている。延辺大学に特徴的な点は、民族自治地域にある教育機関として、全ての掲示が民族語で行われ、「漢語」が訳語として添えられている点である（白い縦長の表札も朝鮮語（右）と漢語（左）で一対である）。

「華文」「漢語」どちらの呼称でも指す言語は一つであるため、辞書的には大きな違いは出ないが、仔細に見れば、「漢」を（多民族中国を構成する一民族としての）漢族に限定し、「華」は漢族を含めた多民族中国を指すという使い分けの萌芽が見える¹⁵。このような語義の違いの上に、現代中国の民族政策・言語政策において、「華文」は中国国外に居住し、外国籍を持つ、中国からの移民とその子孫を対象として、国境を越えた華人世界を繋ぐ紐帯としての言語を意味する。一方、「漢語」は中国公民のうち最大の割合を占める漢族の言語であり、中国国内56民族の意思疎通のための共通言語として用いられ、諸外国の留学生への「中国語」教育においても用いられる呼称である¹⁶。つまり、この「漢語言文化学院」玄関に掲げられたパネルは、中国が外国籍の学生に行う中国語教育における二分類、中国系学生を対象に行う「華文教育」（玄関右側。國務院僑務弁公室が管轄する）と非中国系学生を対象に行う「対外漢語教学」（玄関左側。国家教育部が管轄する）を示している訳である¹⁷。

以上、延辺大学の入試制度や学部編成、教育内容などから分かる点をまとめると、延辺大学は、少数民族教育の中でも朝鮮族の教育を重点的に行うこと、全国唯一の朝鮮族自治州にある高等教育機関として、朝鮮族が主に集住する東北三省（吉林、黒龍江、遼寧省）において朝鮮族人材を育成するという点が、民族政策上の設置目的であること。そのために東北三省においては朝鮮族の学生を他の民族より優遇する合格基準点の設置が正式に認められている。合格基準点が低く設定される他に、「少数民族予科班」などの特別措置などからは、少数民族の学生が漢語を中心に運営される都市部で高等教育を受けることには一定の困難が伴うことが窺われる。

また、一部の民族系専攻を除けば、自治州外の普通大学と変わらない形式と内容の大学教育が行われていることから、補習措置や入学基準点の優遇措置などを講じた上で、朝鮮族子弟に全国の他の地域の大学に劣らない内容と水準の大学教育を受けることが少数民族自治地域にある最高学府としての役割であることも分かる。

2) 延辺市街に見る民族自治の実際

民族色の演出

以下に見るように、鉄道の駅やホテルなど、交通機関や観光施設などでは朝鮮民族色が意識的に打ち出されており、域外の人々へのアピールを行っているものと思われる。



資料9：延吉駅構内の壁画



資料10：延吉駅プラットフォームの女性像

延吉駅の構内中央には、朝鮮族の風俗を色彩豊かに描いた壁画（資料9）が飾られ、プラットフォームにも民族衣装を身にまとい、民族楽器を演奏したり、民族舞踊を踊る人物像（資料10）が何体も設置されていて、利用客に朝鮮民族色をアピールしている。「能歌善舞」（歌や舞踊に優れていること）は中国で朝鮮族を語る際に決まって登場する語で、朝鮮族は自他ともに舞踊や音楽を愛好することを民族的特徴としている。



資料11：延吉市内ホテルの従業員
（背景の絵は長白山と天池）

筆者が宿泊したのは延辺大学近くの比較的低価格の現地資本ホテルで、外国人客は見かけず、利用客は延吉を商用や観光で訪れる国内客が主と見えたが、ロビーには若い男女が民族衣装姿で立ち、民族語で挨拶の言葉をかけ、民族色を演出していた（資料11）。挨拶以外は無表情で立っているだけで、ぎこちない様子であったが、写真撮影には嫌がらずに応じてくれる。

北朝鮮系レストラン

平壤料理とショーが供されるという延吉市内のレストランに案内された。ホテルの一階にあるが、看板が見えて来ると、ホテル名には「平壤」と赤字で冠が付いている（資料12）。入り口には「朝鮮平壤冷麺」の大きな看板。まさしく看板メニューである（資料13）。



資料12：平壤柳京飯店

案内人によれば、延吉の朝鮮族が祝い事や大事な客の接待に使う店だと言う。入り口に立つ民族衣装姿の女性にカメラを向けると、先ほどのホテルでのように応じてくれるかと思いきや、撮影を拒否する身振りをして店内奥に姿を消してしまった。案内人から「店内は撮影しても良いが、女性店員の撮影は不可、ショーの撮影も不可」と告げられる。店内で目にしたのは女性たちが4名ほどで、受付も給仕も（配膳だけでなく、酒を注いだりもした）、ショーの出演も彼女たちが交替でこなす。彼女たちはみな北朝鮮から来ていて、選ばれた人たちののだと言う。料理は看板料理の「平壤冷麺」を中



資料13：看板メニュー「朝鮮平壤冷麺」

心に朝鮮料理が並ぶ中にお好み焼も出てきた。店のオーナーは在日朝鮮人だと言う。ショーは歌を中心に踊りと楽器演奏を交えて45分ほど。歓迎の歌という民謡（後日、ハルピンを案内してくれたZJさんが自分が受けた民族教育を話している時にこの歌を歌い出し、歌の意味を教えてくれた）で始まり、越劇のように王朝期の衣裳を身に付けて女性二人が恋人を演じるらしい歌の掛け合い（つまり一人は男装）にテレサテンの曲など漢語の歌も混じる（客の顔ぶれで演目は変わるという）、扇を使った

資料14：客席と舞台
（中央に伝統楽器、左端に現代楽器）

朝鮮舞踊、伴奏は電子オルガンもあれば、長鼓など伝統楽器もあり、最後はアリランで締めくくる。客席下方に花束が用意されていて、客が一束50元（約818円）で買って女性演者に贈ると、それが彼女たちへのチップになるという（資料14 舞台左袖上に花束の写真に50元と書かれたポスターが貼られている）。花束はちょうどその夜の演者分あり、最終的には各人に一束ずつ贈られていた。このような朝鮮料理店は瀋陽でも見かけた。ガイドブックによる

と、東北三省の都市では珍しくないようである。

民族語の使用

民族自治地域では自治の主体となる民族の言語を公用語とすることが「民族区域自治法」で定められている。このため、公的な掲示などは全て民族語が主で、漢語が訳語として併記される形態である。高速鉄道の延吉駅の駅名標示は当然朝鮮語と漢語の順で表記がされている（資料15）。



資料15 延吉西駅の駅名標示

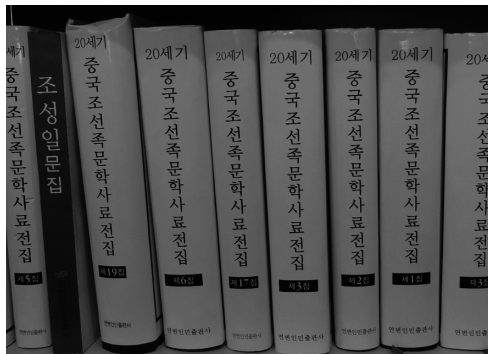
「延辺自治州」で筆者が目にした限りでは、民族語の使用は公的なものに限らず、ほぼ全ての社会面で実施されている。資料 16 は、延辺大学近辺の学生街にある商業ビル。色とりどりの看板が壁面いっぱいに掲示されているが、全て朝鮮語と漢語が並列表記され、民族語が先、漢語が後という順である。

書店の書棚は漢語の書籍も多いが、朝鮮語のみで漢字は一文字も無い書籍が並ぶ書棚もあった（資料 17）。朝鮮語を解さない筆者には何についての本なのか皆目見当もつかない。

また、案内者からこんな興味深いサインを教えられた。延吉市内のとある一角。洗車業者が二軒、一見ほぼ同じ間取りで並んでいる。看板は規定通り、民族語と漢語の順である（資料 18）。ところが、右側の業者はドアの上部に朝鮮語で小さく「朝鮮族経営」という看板を掲げていると言う。このよう



資料 16：延吉市内の商業ビル
（看板は全て朝鮮語・漢語の順で表記されている）



資料 17：朝鮮語書籍が並ぶ書店の棚
（延吉市内）

に漢族を始めその他の民族には分からないが、朝鮮族同士でメッセージを伝えるサインが街のあちこちに見られるようだ。

民族語の使用は文字だけでなく、音声にも現れる。高速鉄道での車内放送も「延辺自治州」を走る間は漢語と朝鮮語であった（車内放送では、全国共通語が先であった）。列車が自治州を抜け、吉林市に入ると、漢語と英語に切り換わった。

3) 朝鮮族の若者たちに見る朝鮮族の現在

今回の延辺・東北行では、七野さんのコーディネートで、各都市で朝鮮族の若者と出会うことが出来た。以下、朝鮮族をめぐる聞き取り内容を中心に紹介する。



資料 18：洗車業者が二軒
（右側に朝鮮族経営を示す小看板がある）

SCさん（資料19）

1995年、延吉生まれ。今年で23歳。男性。5～20歳まで両親と共にロシアで暮らす。周囲からはロシア名で呼ばれている。小学校から専門学校までロシアで15年間教育を受ける。家庭では朝鮮語を使うが、本人はロシア語でものを考えている。国籍は中国であるが、現在は延辺大学の留学生向け漢語クラスで各国からの留学生と共に漢語を学んでいる。漢語クラスの課程を学び終えたら、ロシアに戻って暮らす積りである。漢語を勉強するのは、ロシアに進出している中国企業で働こうと考えているためである。



資料19：年の離れた妹と。延吉駅まで見送りに来てくれる。

以上のやり取りは漢語で行った。基本的な意思疎通は漢語で出来るが、ロシアの学制の話題など、同席した七野さんが朝鮮語で確認した部分もある。朝鮮語の方が自由に話せる。荷物を持つ、ドアを開ける、ちょっとした飲食を差し出すなど、折々に女性への気遣いを見せるが、本人はこれらの行動規範をロシア式だと説明し、そのことにプライドを持っているようであった。ロシアの言語と文化の中で成長し、国籍は中華人民共和国、民族籍は朝鮮族であるが、文化的にはロシア文化への帰属意識が少なくとも目下は強いようで、彼にとってロシアは「帰る」場所である。

延辺を発つ日、彼はホテルまで迎えに来てくれ、駅まで筆者の荷物を運んでくれた。幼い妹を連れて来ていて、彼の娘かと勘違いした。妹は6歳。ロシア生まれで、4歳で中国に帰国した。彼女は今のところ思考は漢語と朝鮮語で行う。成長期に過ごした言語環境が異なるため、両親を同じくし、一つの家庭に暮らす兄妹で第一言語が異なるという事態が生じている。

HQさん（資料20）



資料20：図們江畔のカフェで。平壤で撮った写真をスマートフォンで見せながら。

1987年、図們生まれ。今年31歳。女性。両親はロシアに8年行っていて、中国に帰国すると、今度は父を残して母のみ渡米した。彼女はロシアに行っておらず、父方の祖母に育てられ、今は父と暮らしている。現在は図們在住で、図們江クルーズの船着き場のカフェで会い、話を聞いた。

7月に9日間、父親の職場の団体旅行で平壤に行ってきたばかりだと言う。筆者を含め、同席した3人が口々に平壤の様子を尋ねるのに対し、携帯電話に保存してある写真を見せながら、写真撮影は自由だし、人々はみなスマホを持っている、スーパーの品揃えも何も我々の社会と変わらないと話し、こちらの半信半疑の表情を見ながら笑う。北朝鮮に親族が居て、父方の祖父が手紙でやりとりを続けていたが、1987年に祖父が亡くなった後は連絡が途絶

えていた。今回、父が家に残っている手紙の住所と名前を頼りに平壤に行き、親族を見つけて連絡を回復したと言う。このことから、次の男子学生の家族のように、父方の祖父母の代に現在の北朝鮮領域から中国側に移住したものと思われる。



資料 21：ハルピン太陽島の渡し場で。

ZJ さん（資料 21）

1996 年、黒龍江省生まれ。今年 22 歳。男性。ハルピン工業大学の学生。子供時代から転居が多く、ハルピンには 6 年目である。自分の家族は、父方の祖父母が北朝鮮から黒龍江に逃げて来た（のが中国居住の始まり）。母方の祖父母の代からキリスト教を信仰している。彼らは結婚する前の 10 代からの信者である。

彼は小学校から高校まで朝鮮学校で学んだ。教育に見られる民族色としては、「課間操」（授業の間に行う体操）の時間に朝鮮の民族舞踊を練習した。女子生徒は「長鼓」（資料 14 中央右側）を、自分たち男子はこういう踊りを練習したとスマホで検索して見せてくれた絵には、長いリボン状の布を付けた帽子をかぶった男性が踊る様子が描かれていた。民謡もよく歌うと言って歌い出したのが、朝鮮レストラン（上述）でのショーの一曲目の歌で、歓迎

の歌だと教えてくれた。朝鮮族は「能歌善舞」（上述）なのだと彼も言う。ハルピンの高校では「同学¹⁸」の 7 割が朝鮮族だった。彼らの殆どは（卒業後は？）韓国に行った。このため、高校の同窓会は韓国で行った。朝鮮族の学生たちは両親が韓国で働いている、つまり家庭は韓国にあるケースが多く、夏休みなど休暇になると韓国に「帰省」するのだと言う。現在通学するハルピン工業大学では、朝鮮族の学生は自分の学年で 19 人、全校で 80 ～ 90 人くらいである。ハルピン工業大学の合格点は 60 点だが、朝鮮族は 5 点加点してもらえる。ウイグル族なら 40 点で合格できる。

自分たち朝鮮族は中朝の間で¹⁹「很尷尬」（きまりが悪い、恥ずかしい）。中国では「他所からやって来た人たち」と見做されるし、韓国では「困難な時に逃げて行き、景気が良くなったから戻って来る人たち」と見做されているから。

物腰柔らかで繊細な印象の青年であるが、同時に話好きで、朝鮮族に関する質問に答えてくれるだけでなく、若者たちに流行の遊びや言い回しなど興味深い話を次々と聞かせてくれた。特に、彼の大学は男子学生間の同性愛が多いそうで、同性愛の友人たちが家族と抱える葛藤、同性愛を描いた映画や TV ドラマ、ネット上の話題など、同性愛について多くを語った。同性愛者に共感を持ち、社会の理解が進むことを願っていることが伝わってくる話しぶりであった。告白されたこともあるそうだが、自身は同性愛者ではないとのこと。

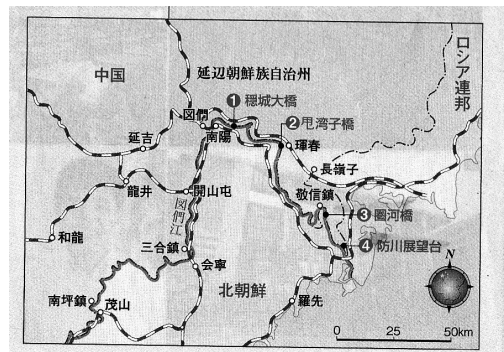
最後に初対面の話の冒頭で民族籍を質問することについて、失礼に当たるかどうか尋ねると「全く問題ない。朝鮮族は朝鮮族であることにプライドを持っている」と答え、そのまま「韓国は小国だから困難は多いが、小さな国土で資源も少ないのに、文化力で世界に存在感を示している。世界で

韓国を知らない人はいないでしょ？」と韓国の話になった。同じ民族が構成する主権国家が世界で存在感を示していることは朝鮮族のプライドを支えているようだ。ただ、漢語で「高麗棒子」とか「鮮族」という時は蔑称なのだと教えてくれた。

以上、直接出会うことが出来た若者たちの具体的な事例にも、朝鮮族の移動性の高さ、移民としての特質が明確に見られた。以上の3名のうち1名は幼い頃から親が不在で、他の親族に育てられているが、案内人・七野さんによると、流動性・移民性から生じる所謂「留守児童」の割合の高さも今日の朝鮮族の特徴であり、課題ともなっていると言う。また、今回の延辺行の帰路に回った長春、瀋陽など東北の各地で出会った非朝鮮族の若者たちも、大学生活において朝鮮族の学友は少なくなく、朝鮮族についての印象や認識について語ってくれた。「延辺自治州」を含めた東北三省が朝鮮族の集住地であるということも具体的に実感することが出来た。最後に、中露の経済協力関係の進展を背景に人生設計を立てる青年、南北朝鮮と中国との政治動向の見えざる底流となる三地に親族関係を持つ人々、同性愛者への理解を進めようとする青年など、朝鮮族の若者たちがグローバル時代の現代を生きる若者であるという当然の事実も改めて認識することも出来た。

二、中朝露国境の現在

2017 年来、北朝鮮情勢がワールドニュースを賑わせ続ける中、中朝国境も世界的関心を集めた。中朝国境ウオッチと言えば、鴨緑江沿岸にある遼寧省丹東が有名であるが、近年は「延辺自治州」の琿春～図們間も中朝露三国の国境見学ポイントとして注目されている。(資料 22)



資料22：中朝露三国の国境見学ルート
(琿春～図們)

1、琿春：国境貿易に活路を探る街

延吉市から高速鉄道に乗り、約 40 分で琿春駅に到着する。駅名は朝鮮語・漢語・英語・ロシア語の順に 4 言語で標示されている (資料 23)。



資料23：琿春駅の駅名標示（朝鮮語・漢語・英語・ロシア語の順に4言語で）

琿春駅前から予約しておいたタクシーに乗り、そのまま市街地は素通りして、市街地東方 60 数キロの防川村にある中朝露国境見学ポイントを目指す。高速鉄道駅周辺は 6 車線か 8 車線はある道幅の広い直線道路が縦横に走り、沿線はこれまた直線的に区画された大きなブロックに大規模な施設が並ぶ。資料 24「国際辺貿城」（国際国境貿易シティ）はそのような施設の一つ。規模は大きいですが、営業している気配は見えなかった。



資料24：「国際辺貿城」（国際国境貿易シティ）

道路標識に見える街路の名前も「創新街」など歴史的・文化的背景の無い名前である。とにかく高速で走り抜けるタクシーの車窓からは車両や歩行者など動くものが殆ど見えなかった。高速鉄道の路線は一般に従来ある市街地の外側に敷設されることになるため、高速鉄道の駅は従来からある市街地の郊外にある（駅名も「延吉西駅」など都市名に駅が立地する郊外の方向を加えて命名されている）。このため、大都市でも高速鉄道の駅周辺は都市計画通りにハコモノは出来てはいるものの閑散と

していることが多いが、それにしてもである。琿春は「国際合作師範区」に指定されている。人跡稀な辺境地帯に政策先行で国境貿易特区を作り、地域産業を興そうとしているが、まだ軌道に乗れていないようだ。車はゴーストタウンのような市街地を走り抜け、防川村に向かう道に入る（資料25）。

道路は見学のために開削された道なのである。目的地まで集落も交差点も信号も無い一本道である。道路は一路図們江沿いに敷設されている。進行方向右手（南）は河、左手（北）は山である。山の奥はロシアへと繋がる原生林に続いており、沿線には「東北虎」（シベリアトラ）の保護に関するスローガンや「虎豹出没、要注意」の標示が設置されている。一方、河の向こう岸は北朝鮮である。このように、山地が河に迫る狭い岸边に開いた細い道路を目下、山側を切り崩して拡幅中である（資料26）。



資料25：国境見学ポイントに一直線に向かう道路

車窓からの景色は変化に乏しく単調であるが、そこに突如として砂像群が現れ、驚かされる。モ



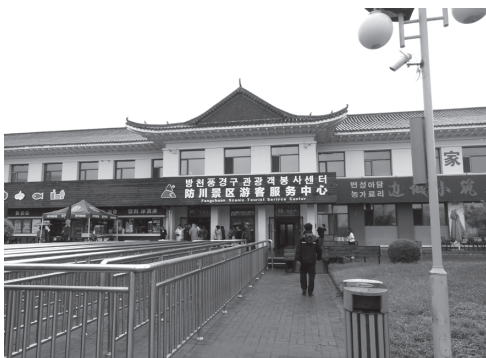
資料26：拡幅工事中の国境観光用道路

スクワの赤の広場や万里の長城らしき像が見える。この地にある砂丘を活かして、沿道に観光ポイントを創出しようとする試みのようだ。他にも、沿道では日中戦争中の1938年にこの地で日ソ両軍が衝突した「張鼓峰事件」の記念館も建設中であった。

ひたすら東進すること約1時間で、国境見学ポイントに到着。「防川景区遊客服務中心」とある（資料27）。タクシーにはゲート前で待機してもらう。大型バスが数十台駐車できそうな広大な駐車場と行列

誘導用の柵(資料27 手前)を見ると、かなりの人出に対応できる態勢である。週末や休日は多くの集客があるのか、期待先行なのかは不明である。一人70 元(約1145 円)の入場券を買い求め、ゲートをくぐり、シャトルバスで展望台「龍虎閣」に向う。この展望ポイントのキャッチフレーズはズバリ「一眼望三国」(資料28)。展望台チケットの解説に拠れば

「一眼望三国」見学ポイントは中露朝三国鼎足の地であり、東南はロシア沿海辺境区ハサン鎮に接し、西南は朝鮮羅先特別市豆満江里と河を隔てて向かい合い、図們江が海に注ぐ河口まで直線距離で9.8 キロの距離である。



資料27：国境観光ポイント入口



資料28：「一眼望三国」の前で記念撮影する観光客

展望台は12階建てで、上部の八角形状の10階から12階が展望階、その下の階は展示階になっている(資料29)。10階は四周を巡るバルコニーに出て、写真撮影が出来るようになっている。3本の国旗が示す通り、河の中州が中国、向かって河の右岸は北朝鮮、左岸はロシアである(資料30)。ここが最高の撮影ポイントであるため、観光客は次々に入れ替わって写真に収まる。しびれを切らして、国旗の左右で二組一緒に撮ってしまえと声が掛かり、どっと笑声が起こる(資料31)。琿春は河が海に注ぐ河口に近く、国境線は森林地帯に遊水池や中洲が広がり、次に見る図們とは景観が大きく異なる。



資料29：展望台「龍虎閣」



資料30：中朝露国境を背に記念撮影



資料31：資料30の撮影ポイントに向けてカメラを構える観光客

国境見学ポイントから琿春駅への帰路、道沿いにある「圈河口岸」を見学する(資料32)。脇に立てられている解説ボードによれば、ここは中国側から北朝鮮の羅先自由経済貿易区に通じる唯一の

「口岸」（国境ゲート）である。この地点は歴史的に中朝の通商ゲートで、1949年の建国後も国家二類口岸として運用されていたが、通行量の減少などの原因により、1982年に一旦閉鎖された。図們江下流地域（琿春一帯を指す）の国際協力開発の活性化に伴い、95年に再開、同年には圈河（中国）・羅津（朝鮮）・釜山（韓国）を結ぶ国際陸海輸送ルートが開通した。97年からは第三人の通過も可能となった。このゲートの先に4車線の橋が架かり、橋の真ん中に中朝国境線があるという。次に見る図們口岸と基本的に同じ形状をしているので、このゲートの先は資料38のようになっているものと思われる。

この後、昼食のために琿春市街地に立ち寄る。琿春で最もロシア人に人気があるというロシア料理店に案内される（資料33）。店内はロシア人とおぼしき客ばかり。服装や所持品から見て、旅行者ではなく生活者である。この街に一定規模のロシア人コミュニティがあることが分かる。今回の訪問では具体的に見る機会が無かったが、この地域で国境貿易なり国境ビジネスが一定程度動いているということを側面から推測できる。

2、図們：国境観光のニュースポットを目指す街

琿春視察は午前で終え、昼食用のロシア料理はテイクアウトにして、高速鉄道で図們に移動。40分程度で図們北駅に到着。図們はロシア領からは距離があるため、ロシアと国境を接する琿春の駅舎とは異なり、駅名標示は朝鮮語と漢語のみである（資料34）。



資料34：図們北駅の駅名標示



資料32：圈河口岸



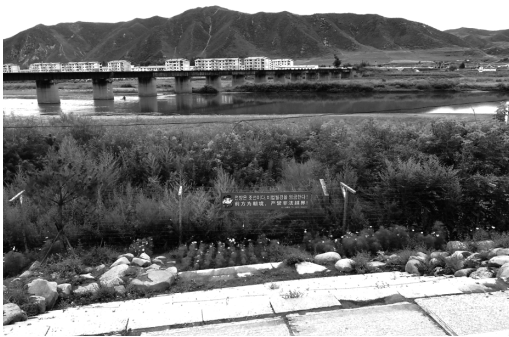
資料33：琿春市内のロシア料理店。看板は中央にロシア語、左上に朝鮮語、右上に漢語。

ここでも市街地には立ち寄らずに、郊外にある高速鉄道駅から国境見学ポイントに直行する。やはり図們江沿いの道を行くが、図們では沿岸に越境を禁止する警告板が多く目に付く（資料35）。鉄条網も近距離に見える。琿春での見学ポイントとは異なり、市街地から近く、河沿いを走る道路と河との距離も近いためであろう。「中朝国境における心暖かな注意喚起」というソフトな見出しの

警告板を見てみると（資料36）、

- 一、境界碑や境界杭等の国境施設を愛護し、攀じ登ったり、乗り越えたり、鉄条網を破壊するなどの行為を行わないで下さい。
- 二、国境地帯の法規を自覚的に遵守し、境界外に向かって大声で叫んだり、物を投げたり、物品の交換を行ったりしないで下さい。
- 三、許可なくドローンを使って国境地帯で撮影を行わないで下さい。

とある。禁止事項から国境見学地点の状況を窺うことも出来る。



資料35（左）、36（右）：国境の注意喚起看板

図們での最大のビューポイントは図們大橋である。中国側の入り口は「図們口岸」（資料37）。先に見た「圈河口岸」より造りが立派である。「中国図們口岸国門」と書かれた25元（約400円）のチケットが手元に残る。この門から入って橋を歩くのに料金が必要なのか、公開されている門の屋上に上る際に料金を支払ったのか記憶が無い。それ程、これと言った手続きも検査もなく、いつの間にか門をくぐって橋を歩いていた。今ある橋と並行して、新たに架橋工事が進んでいた。鉄道が高速道路のように見える（資料38）。3分も歩くと国境線である。国境線は赤色で引かれ、その前後に中朝双方にとっての注意喚起ラインが黄色で引かれている。黄色ライン内に留まったまま、レッドラインに片足をかけるのが、ここでの決めりの撮影ポーズらしい（資料39）。柵などは無く、朝鮮側までそのまま平らに橋は続いている。資料39の画面手前に椅子に腰かけた人物が一人居るが、武装しておらず、軍服姿でさえ無かった。若者たちがレッドライン上の撮影に興じてラインを踏み出しそうになった際に「おい！」と声を出したが、それだけであった。写真を何枚か撮ると他にすることも無く、ゲートに引き返す。ゲートの上は展望台になっていて、望遠鏡で朝鮮側を覗くことも出来る（資料40：橋の中ほどで観光客が集まっている地点が国境線）。北朝鮮側の橋のたもとにも同様のゲートが見え、集合住宅のような建物が並んでいるが、車両や人などが動くのは見えない。丘陵に放牧する人が見えた。



資料37：閘門口岸（橋の上の国境線側から中国側を撮影）



資料38：閘門大橋を北朝鮮側に向って歩く



資料39：中朝国境線（進行方向が北朝鮮側）



資料40：閘門口岸展望台から橋を見下ろす

次は、閘門江上の中朝国境線を見学するクルーズである（資料 41）。乗船料は大型船・中型船 120 元、小型船 60 元。当日運行していたのは小型船が二艘程度で、筆者が乗った船の乗客は数名ほどであった。遊覧船チケットには、一般的な安全上の注意の他に、「朝鮮側に向かって大声で叫んだり、写真を撮ったり、ものを投げたりしない」「朝鮮側に向かって挑発的行為をしない」などの注意が印刷されている。閘門江の中央が中朝国境となっていて、その中国側を国境線に沿って 20 分ほど航行して戻ってくる。中国側の沿岸にその名も「辺疆大厦」（辺境ホテル）というホテル（資料 42）がぽつんと建っている他は、夏草が茂る中洲とさまざまな丘陵が続くのみ（資料 43）で、何の波乱も無く、退屈なほど平穏に終了した。



資料41：国境クルーズ船着き場



資料42：辺疆大厦



資料43：国境クルーズ

図們はこれと言った産業も無く、「図們口岸」を最大の観光資源として中朝国境観光が地域経済の重要な柱であるようだ。北朝鮮に面した図們江沿いには遊歩道が整備され、遊歩道沿いには中朝国旗や双方の指導者の写真をあしらった記念撮影用パネルが点在する（資料44）。また、北朝鮮グッズを売る商店も多く、北朝鮮製の工芸品、服や帽子などの記念品、通貨やタバコなどが並べられている（資料45、46）。中朝国境見学にやって来た観光客にとって、格好の土産になるようだ。それらのうちの一軒で、金正恩氏ご愛用という金色のパッケージのタバコ（資料47中央）を一番人気だと、確か15元（約250円）で勧められたが、筆者はその右隣のアリランと言う愛らしい名のタバコを記念に購入した。



資料44：中朝国境観光記念撮影用パネル



資料45：北朝鮮土産店



資料46：北朝鮮土産店（店内）



資料47：北朝鮮土産（タバコ）

以上、中朝露国境地帯に位置する琿春と図們江を挟んで北朝鮮と隣り合う図們で、国境地帯の現在を取材した。琿春では国境ウォッチポイントに向かう専用道路の拡幅や観光ポイントの創出が行われ、図們では遊覧船の運航、遊歩道の整備などが行われており、観光客受け入れのための環境整備が進んでいた。

国家間の関係が緊張状態にある時には、対立の最前線となる国境地帯は、国境問題の解決によって中露関係が安定する中、国境貿易と国境観光を地域産業として、国境地帯であることを「地の利」とする方向性を模索しているようだ。その方向性にとっての最大の不確定要素として北朝鮮情勢があり、目指す方向は明確でありながら、エンジンを全開にはしきれない、潮待ちの気配が感じられた。

むすびに

以上、中国延辺朝鮮族自治州における民族教育および民族自治の実際と中朝露国境の現在を主軸に報告した。今回の中国延辺・東北行では、帰路にハルピン郊外の七三一部隊跡や撫順郊外の平頂山事件跡など、旧満州国関連史跡の現在についても見たが、この点については紙幅の関係から稿を改めて報告したい。

参考文献および関連サイト：

梅棹忠夫監修『世界民族問題事典』平凡社、1995年

中華人民共和国国家民族事務委員会公式HP、<http://www.seac.gov.cn>

全国人民代表大会公式HP、<http://www.npc.gov.cn>

延辺自治州政府公式HP、<http://www.yanbian.gov.cn>

資料出典（写真は特に出典を示さない限り、筆者が現地で撮影したものである）：

資料1：筆者作成。

資料3：延辺博物館展示パネル「1937年—1939年朝鮮集団移民在東北各地分布状況統計表」を元に日本語版を作成。データの出所は示されていない。

資料4：延辺博物館展示パネル「朝鮮族人口統計表」を元に日本語版を作成。統計の範囲（中国全国なのか、延辺地域なのか）やデータの出処など標記が無く不明。

資料22：『地球の歩き方:大連・瀋陽・ハルビン（2017～18）』（株）ダイヤモンド・ビッグ社、2016年、215頁。

¹ 正式名称は「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」。文部科学省の提唱により、2014年からスタートした官民協働の海外留学支援制度。詳しくは、「トビタテ！留学JAPAN」公式HP：<https://www.tobitate.mext.go.jp>参照。

² データは2010年現在。中華人民共和国国家民族事務委員会公式HP「民族知識」「中華各民族」「各民族紹介」「朝鮮族」「概況」<http://www.seac.gov.cn>、2018.10.27現在。

³ 原文は「遷入」。域外から移動して入境した意。

⁴ 中国朝鮮民族史学会編『朝鮮族研究2014』民族出版社、2015年。前言によると、中国朝鮮民族史学会の年会論文集である。内部の4分類は年会で行われた発表の分会と思われ、「移民とディアスポラ研究」の他に「民族関係史と抗日闘争研究」「文化教育研究」「“朝鮮族学”研究」がある。

⁵ 1952年に成立したのは「自治区」で、1955年に「自治州」に変更（実質的には格下げ）されている。水野直樹「間島」項（梅棹忠夫監修『世界民族問題事典』平凡社、1995年参照。自治レベルが当初は「自治区」であったことは、管見の限り、現在の延辺朝鮮族自治州の公式資料では言及されていない。

⁶ 延辺朝鮮族自治州政府公式HP「延辺概況」<http://www.yanbian.gov.cn>、2018年9月5日現在参照。

⁷ 今日、日本の関西と中国朝鮮族自治州間に直行定期便が飛ぶ背景には日本による植民統治の歴史がある。1922年に大阪—済州島間に尼ヶ崎汽船が定期航路を開始し、翌年には朝鮮郵船も定期航路を開いた。こうして大阪近辺には済州島からの渡航者が急増。全国的主要府県の中でも桁外れの集中を示し、ピークを迎える1940年には全国の在日朝鮮人124万1千178人のうち大阪が29万8千688人、兵庫が10万8千496人と阪神地域で全体の3割強を占めている。詳しくは、内藤正申「日本海地域における在日朝鮮人の形成過程（I）」『経済科学論集』（11号、1986年）参照。

- ⁸ 民族自治区域が実施されている区域は、新疆ウイグル自治区、チベット自治区、内モンゴル自治区、広西壮族自治區、寧夏回族自治区の5自治区に加え、自治州が30州、自治県（旗）が120県ある。「旗」は「県」に相当する内モンゴルの行政単位。それぞれの行政トップは主席、州長、県長である。以上、中国の民族政策については、梅棹忠夫監修『世界民族問題事典』（平凡社、1995年）、「中華人民共和国国家民族事務委員会」公式HP、全国人民代表大会公式HP「中華人民共和国民族区域自治法（修正版）」を参照。
- ⁹ 以上、延辺自治州政府公式HP参照（前掲注6に同じ）。
- ¹⁰ 「遼東」は「遼河の東」を意味する。歴史上、行政区「遼東郡」が置かれた範囲は今日の遼寧省全域にほぼ相当する。
- ¹¹ 「中華民族多元一体」論は、社会学者・費孝通が1980年代末に提示したもので、現在の中華人民共和国の公民を構成する諸民族が多元的でありつつ、同時に「中華民族」という一体を構成するとする。多民族の共存と国家の統一の堅持という中国の民族政策の理論的基盤となっている。
- ¹² 「間島」とは、中国東北地方のうち朝鮮に接する地域を指す朝鮮側の呼称。「満州国」時代の間島省、現在の吉林省延辺朝鮮族自治州にはほぼ重なる。歴史上、高句麗、渤海の領域であり、17世紀以降、清朝は女真族発祥の地として一般民の入植を禁じる封禁政策をとった。しかし、春に豆満江（図們江）を渡って農耕を行い、秋には朝鮮に戻る農民が次第に増え、19世紀半ばには定着者が多くなったこともあり、1875年清朝は封禁を解き、開墾を認めた。1905年の日韓保護条約により大韓帝国の外交権を奪った日本は、07年に統監府間島派出所を設置、「朝鮮人保護」を名目に間島を支配下に置こうとした。間島では日韓併合後の義兵部隊や三一運動後の独立軍が武装闘争を展開し、ソ連から社会主義思想が受容され、朝鮮内にも伝えられた。間島は朝鮮の民族運動にとって一種の「聖地」であり、植民地期を通じて民族運動の最大の拠点であった。解放（日本敗戦）後、「間島」の名称は「延辺」に統一された。解放直後には数十万の朝鮮人が帰国し、中国人の入植もあって、間島の朝鮮人人口は半数を割り込んだが、52年延辺朝鮮族自治州（1955年に自治州）が創設された。梅棹忠夫監修『世界民族問題事典』平凡社、1995年、333頁参照。
- ¹³ 以下、延辺大学に関しては、延辺大学招生弁編『延辺大学招生指南』2018年度版および延辺大学公式HP（<http://www.ybu.edu.cn>）を参照。
- ¹⁴ 前掲注『延辺大学招生指南』66頁参照。
- ¹⁵ 現代中国語の規範を示す辞書である中国社会科学院語言研究所詞典編輯室編『現代漢語詞典』2016年（最新修訂版）では、「漢語」は「漢族的語言，是我国的主要語言」（漢族の言語で、わが国の主要言語である）、「華文」には「指中文」（中文を指す）とあり、その「中文」は「中国的語言文字，特指漢族的語言文字」（中国の言語と文字で、特に漢族の言語と文字を指す）と定義されている。
- ¹⁶ 詳しくは、國務院僑務弁公室公式HP（<http://www.gqb.gov.cn>）および国家漢語弁公室公式HP（<http://www.hanban.org>）他を参照されたい。
- ¹⁷ この二分類の背景には、「中国」の二つの概念の重なりとずれがある。一つは華僑・華人など、文化的血縁的に中国（漢文化）にアイデンティティを持つことによって形成される文化圏的なもので、中国籍を有する必要は無い。もう一つは、現共和国の国籍を持つ諸民族で、漢文化に属さない民族集団をも含む。
- ¹⁸ 文脈からは、通学していた高校の学生全体ではと思われるが、本人には未確認。「同学」という単語のみだと、他に同級生、クラスメイトの可能性もある。
- ¹⁹ 「中朝」は通常は中国と北朝鮮にある政体を指すが、彼は韓国の話始める。彼の意識の中で「朝鮮」は朝鮮半島全体を指し、南北の政体双方がカバーされているようである。